

# 熱気球活動における新型コロナウイルス感染症 感染拡大予防についてのガイドライン

2020年8月22日

一般社団法人日本気球連盟  
リスクマネジメント委員会

## 目次

### I. はじめに

### II. 感染症対策を考える上での重要事項

- (1)新型コロナウイルス感染症の感染経路について
- (2)新型コロナウイルスの感染を促進する“3密要因”
- (3)新型コロナウイルスに関して

### III. 熱気球活動の基本的考え方

### IV. 熱気球活動の対策

#### 1. 通常の熱気球活動(フリーフライト)の対策

- (1)事前準備
- (2)集合
- (3)活動中

#### 2. 熱気球大会の対策

- (1)主催者の対策
- (2)観客・参加者(選手・スタッフ・関係者)の感染症対策・お願い
- (3)参加選手への対応
- (4)スタッフへの対応
- (5)大会期間中に感染者、感染の疑いがある人が出た場合

#### 3. 係留体験搭乗の対策

- (1)実施前の対策
- (2)開催中の対策

### V. その他の留意事項

- (1)個人情報の取り扱い
- (2)免責

## I. はじめに

本文書は、一般社団法人日本気球連盟が熱気球活動における新型コロナウイルス感染拡大予防のための留意点について、公益財団法人日本スポーツ協会の感染拡大予防ガイドラインと新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の提言等を参考にまとめたものである。

なお、新型コロナウイルス感染症への感染を防止するための対策については、科学的な知見が集積されている訳ではなく「密集・密接・密閉の3密を防ぐ」「ソーシャルディスタンス」の観点を重視して作成している。このため、本ガイドラインが全てではなく、熱気球活動実施各地域の感染状況に応じた対策を実施する必要がある。

一刻も早く新型コロナウイルス感染症が終息し、安心して飛べる空が戻り、大会が日本各地で盛大に開催されることを期待している。

## II. 感染症対策を考える上での重要事項

### (1)新型コロナウイルス感染症の感染経路について

新型コロナウイルスの感染は以下の2つの経路で生じることが知られている。

#### ①飛沫感染

感染者の飛沫(くしゃみ、咳、つばなど)と一緒にウイルスが放出され、他の方がそのウイルスを口や鼻などから吸い込んで感染することを言う。

#### ②接触感染

感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスがつく。他の方がそれを触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触ることにより粘膜から感染することを言う。

WHO は、新型コロナウイルスは、プラスチックの表面では最大72時間、ボール紙では最大24時間生存するなどとしている。

### (2)新型コロナウイルスの感染を促進する“3密要因”

新型コロナウイルスの感染伝播が起こりやすい原因として以下の3密要因が重要となる。

#### ①多くの方が集まる状況での濃厚接触（手が届く範囲での交流）＝密集

通常、手の届く範囲での交流ということで理解されている。立食パーティーや対面での面談・食事なども濃厚接触になり、多数の人が多く集まる環境において感染のリスクが高まる。ただし、数分間、あるいはすれ違い程度の交流は、通常は濃厚接触とはならない。

#### ②近距離での咳・くしゃみ、会話、発声＝密接

咳やくしゃみに加えて、濃厚接触状態における“会話や発声”でも感染が広がる可能性がある。

#### ③換気の悪い密閉空間＝密閉

咳やくしゃみ、会話などにより排出された大きな粒子(しぶき)はすぐに地面に落ちるが、小さな粒子は短時間の間、空気中を浮遊することが考えられる。空気がよどみやすい空間、閉鎖された環境では、その粒子を吸い込んで感染する危険が高まる。

### (3)新型コロナウイルス感染症に関して

#### ①感染の兆候

- \* 高熱、咳(せき)、のどの痛みなど風邪の症状
- \* だるさ(倦怠(けんたい)感)、息苦しさ(呼吸困難)
- \* 嗅覚や味覚の異常

#### ②感染の可能性

- \* 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある場合
- \* 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合

#### ③「濃厚接触者」の定義

- \* 患者(確定例)と同居あるいは長時間の接触(車内、航空機内等を含む)があった者
- \* 適切な感染防護無しに患者(確定例)を診察、看護若しくは介護していた者
- \* 患者(確定例)の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者
- \* その他: 手で触れることの出来る距離(目安として1メートル)で、必要な感染予防策なしで、「患者(確定例)」と15分以上の接触があった者(周辺の環境や接触の状況等個々の状況から患者の感染性を総合的に判断する)

## Ⅲ. 熱気球活動の基本的考え方

活動に当たっては専門家会議提言等に基づき、対応する必要がある。

政府または、活動が実施される各自治体の方針に従うことが大前提である。

また熱気球活動を行うクラブのメンバー・関係者は、それぞれの地域に合わせた感染症対策を講じる必要がある。

## Ⅳ. 熱気球活動の対策

### 1. 通常の熱気球活動(フリーフライト)の対策

#### (1)事前準備

- \* 気球活動参加者全員のリストを作成する
  - ・氏名、住所、電話番号
  - ・参加者の事前の体調等を記入する
  - ・新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無

- ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方の有無
- \* 熱気球活動に関する新型コロナウイルス感染症対策を参加者全員に配布する
- ・活動後2週間以内に発病した場合は必ず連絡することと連絡先を明記

#### (2)集合

- \* 集合場所には各自の車にて移動、乗り合わせの場合は密を避ける

#### (3)活動中

- \* フライト当日朝、検温結果および体調に異常がないか確認し、リストに記入する
- 以下の体調不良がある場合は参加の自粛を求める
  - ・検温を行い、体温が平熱より0.5度以上高い場合、または37.5度以上の場合
  - ・咳・咽頭痛などの風邪の症状がある場合
  - ・強いだるさや息苦しさがある場合
- \* 気球活動中はマスクを着用すること(マスクを持参すること)
  - ・チェイスカーが密にならないように配慮すること(気球搭載車両とスタッフの移動車両を用意:定員に余裕ある人数で活動する)
- \* 車両等に消毒剤を設置し、すべての参加者が随時全員手指の消毒を実施する
  - ・活動開始時
  - ・車両搭乗時
  - ・バスケット搭乗時
- \* マイハンドタオル・マイタオルの持参を求めること
- \* 大きな声での会話を控えること
- \* フライト後の大人数の飲食等は極力控えること

#### (4)注意事項

- \* 参加者が熱気球活動終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、他の参加者に対して速やかに報告し、保健所等の指示を仰ぐ

## 2. 熱気球大会の対策

熱気球大会の主催者は観客・参加選手・スタッフ・関係者にそれぞれ感染症対策を講じる必要がある。特に不特定多数の観客が来場する熱気球大会において、感染症対策は重要である。

#### (1)主催者の対策

- \* HP等に観客・参加者(選手・スタッフ・関係者)に対し感染症対策のお願いを掲載すること
- \* 観客、参加者(選手、スタッフ、関係者)の感染リスクを極力減らすような対策を講じること
- \* 「ソーシャルディスタンス」「マスク着用のお願い」「手洗い、手指の消毒」等の案内を定期的にも実施

すること

- \* 密集する場所、イベント、式典を極力無くす対策をとること

## (2) 観客・参加者(選手・スタッフ・関係者)の対策

- \* 大会期間中、毎日検温を行い、体調に異常がないか確認し、体調不良の場合は参加の自粛を求めること
- \* 原則マスクの着用(マスクの持参)を求めること
  - ・2歳未満の幼児は着用不要
  - ・周りの人との距離を取れる場合は着用不要
- \* 各所に手指消毒剤を設置すること
- \* 発熱が軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は来場しないように呼び掛けること
- \* 参加者が距離をおいて観戦できるように目印の設置等を行うこと
- \* 申込みを求める場合は電子的な受付の普及を図り、受付場所での書面の記入等を極力避けるようにすること
- \* マイハンドタオル・マイタオルの持参を求めること

## (3) 参加選手への対応

### ① 募集の留意事項

熱気球大会の主催者は参加選手の募集に際し、大会開催エリアでの感染拡大防止のために、参加者が遵守すべき事項を明確にして、協力を求めること。また、これを遵守できない参加者には、他の参加者の安全を確保する等の観点から、熱気球大会への参加を取り消したり、途中退場を求めたりすることがあることを誓約・同意してもらうこと。感染拡大防止のための措置としては、参加者が以下の事項に該当する場合は、大会前に自主的に参加を見合わせることを求める。

- ・大会参加前2週間毎日検温を行い、37.5度以上の日があった者(現地に入る日まで)
- ・咳(せき)、のどの痛みなど風邪の症状がある者
- ・だるさ(倦怠(けんたい)感)、息苦しさ(呼吸困難)がある者
- ・嗅覚や味覚の異常がある者
- ・新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触のあった者
- ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる人がいる者
- \* 各チームに事前に事前チェックシートを渡し、記入してもらうこと
- \* 感染防止対策の誓約書・同意書を提出してもらうこと
- \* チームの参加人数を最小限にってもらうこと

### ② 大会前日・当日・期間中の留意事項

熱気球大会主催者は、大会前日・当日の受付時に、参加者に改めて感染症対策の誓約・同意を得ると共に感染症対策マニュアルを配布する必要がある。なお、主催者が期間中に参加者に求める感

染拡大防止のための措置としては、募集の留意事項に加えて、以下のものが挙げられる。

- \* ブリーフィング会場に入る人数を制限し、入場の際は検温を実施すること
- \* 感染防止対策の誓約書・同意書の原本を主催者に提出すること
- \* 各参加選手が、全てのクルーの連絡先をリストにして主催者に提出すること
- \* 感染の疑いがある者が出た場合は速やかに主催者に報告すること
- \* 各参加選手に、主催者の作成した感染症対策マニュアルを配布すること
- \* マスクを持参すること(原則マスクを着用すること)
- \* こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること
- \* 他の参加者、主催者スタッフ等との距離(できるだけ2m以上)を確保すること
- \* 大会中に大きな声で会話、応援等をしないこと
- \* 大会中の大人数の飲食は控えること
- \* 宿泊環境に注意を払うこと
- \* 感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従うこと
- \* 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに報告すること

#### (4)スタッフへの対応

熱気球大会のスタッフには傷害保険に加入することは出来るが、疾病保険は加入出来ず感染症は対象外である。感染リスクを100%無くすことは出来ないため、その旨を申込書に記載する等、参加者に明示して理解を求める。

##### ①スタッフに対しての徹底事項

- \* 毎日参加受付時に検温し発熱がないか確認すること
- \* 手洗い・うがい・アルコール消毒等を徹底すること
- \* 体調不良の場合は参加を自粛すること
- \* マスクを着用すること
- \* 単独あるいは他社と距離を保った状態で活動すること

##### ②主催者の運営

- \* 運行気球を減らす等運営人数を最小限にするための運営方法を検討すること
- \* 宿泊環境は参加者に最大限配慮すること

#### (5)大会期間中に感染者、感染の疑いがある人が出た場合

##### ①選手、スタッフ、関係者で感染の疑いのある人が出た場合

- \* 感染の疑い(自覚症状がある場合)

以下のいずれかに該当する場合には、速やかに帰国者・接触者相談センターに相談すると同時に、主催者に報告し、病院・保健所の判断に従うこと。

- ・息苦しさ(呼吸困難)、強いだるさ(倦怠感)、高熱等の強い症状がある場合

・重症化しやすい人(高齢者、糖尿病、呼吸器疾患等の基礎疾患がある方や透析を受けている人等)は発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状がある場合

・上記以外の人で発熱や咳等比較的軽い風邪の症状または味覚・嗅覚異常等がある場合

\* 検査の結果が出るまで

当該選手、スタッフ、関係者は大会の参加を停止する。チーム内で感染の疑いの発症者が出た場合は、参加選手の症状の有無にかかわらず当該チームの大会出場を停止とする。行動記録を確認・ヒアリングして濃厚接触者を抽出する。合わせて濃厚接触の疑いのあるチームの大会の出場を停止とする。経過観察の必要性・帰宅方法等については病院・保健所等の指示を仰ぎ総合的に判断する。

\* 陽性判定

陽性判定された場合は、主催者は病院・保健所等の判断を仰ぎ総合的に判断して大会の中止を検討する。

②観客に感染の疑いなどがあった場合

\* 開催場所自治体等の指示に従う。

### 3. 係留体験搭乗の対策

熱気球係留体験搭乗は不特定多数を対象とするため、感染拡大防止に注意することが重要である。

(1)実施前の対策

- \* ネット等による事前申込制を実施し、受付時間を指定し多くのお客様が並ばないようにする
- \* 係留体験搭乗における新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を、申込者に周知する。
  - ・2週間後までに発症した場合の連絡先を明記する。

(2)開催中の対策

- \* ソーシャルディスタンス(受付テント前に枠を作る等搭乗待ちの参加者が密にならないようにする)
- \* 検温(参加スタッフ、搭乗者全員の検温:非接触型検温器)
  - ・参加スタッフ、搭乗者全員の検温を行い、37.5度以上の人は断る。
- \* マスク着用(スタッフ、搭乗者全員マスク着用を義務付ける)
  - ・スタッフはフェイスシールドも着用することが望ましい。
- \* 手指の消毒(設置場所:受付テント、気球搭乗口、退出口)
  - ・バスケットに乗るときに搭乗者全員手指を消毒する(バスケットにウイルスを持ち込まない)
- \* 大きな声でのおしゃべりをしないように依頼する。
- \* 1グループずつで搭乗(1家族を基本とする)
- \* バスケットの中では外側方向を向いてもらう。

## V. その他の留意事項

### (1) 個人情報の取り扱い

大会主催者並びにパイロットは、感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意しながら、活動の際に参加者より提出を求めた情報について、保存期間（少なくとも1か月）を定めて保存しておくことが必要である。また、活動終了後に、参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合は、活動地域の保健所等と相談したうえで指示を受けるようにする。加えて、現在、導入されているスマートフォンを活用した接触確認アプリは感染の拡大防止に寄与することを踏まえ、活用を検討する。

### (2) 免責

本ガイドラインは、一般社団法人日本気球連盟の社員及び関係者に対して、概括的な指針を示すことを目的とするものであり、本ガイドラインの内容によって問題が生じたとしても日本気球連盟は一切の責任を負わない。